



Q 筆の里工房周辺事業にドッグランを

A 町 長

他市町の運用実績や管理上の課題等、多角的な視点から精査する。

Q1

ドッグランのニーズを把握しているか。

A1

設置を求める声があることは認識しているが、数値的なものは把握していない。

Q2

この事業は、町民が憩い、集い、交流する場を作ること目的としているが、ドッグランはこの趣旨にもマッチすると思うが。

A2

重要な視点であると受け止めている。

Q3

今からでもドッグランは設置可能か。

A3

実施設計は終わっている。整備できるかどうか精査が必要である。

Q4

オープンに間に合わせる必要はないし、規模や運営方法など様々あるので、すぐに検討に入ってもらいたい。

A4

課題を整理し多角的視点から精査する。



Q 創造の丘公苑創作館の企画運営方針は

A 町 長

財政との均衡を図りながら、持続可能な施設運営に取り組む。

Q1

管理、企画運営は誰がするのか。

A1

筆の里工房と一体的に管理するため、筆の里振興事業団を考えている。

Q2

企画を発展継続させるための方法は。

A2

昨年度からイベントなどを開催し、町民に声掛けをしている。引き続き意識醸成のためにも町民と一緒に取り組んでいきたい。

Q3

その町民の方々と一緒に企画していこうという形はできているのか。

A3

今はまだだが声掛けを続けていずれそのよ

うな形にしたい。

Q4

町民参加または主体で運営団体を作っていく考えはないか。

A4

町民には積極的に関わっていただきたいし、その可能性はあると思う。

Q5

財源計画は。

A5

内閣府の地域未来交付金や、広島県の宿泊税市町交付金を活用するなど、財政規律を堅持しつつ、補助金等の外部財源の確保や効率的な施設運営に努めることで、持続可能な財政運営を実現したい。



Q 宅地造成による周辺住民への浸水被害対策を

A 町 長

宅地造成に係る流域全体を精査するよう努める。



Q1

近年、集中豪雨が頻発するなか、新たに宅地造成が行われるエリアの周辺住民から、浸水被害を懸念する声があるが、影響調査は行われているのか。

A1

開発団地の雨水流出量を計算し、直近の河川までの排水計算をして工事をするよう指導している。

Q2

近年、何度も浸水被害に遭っている住民がいるのは何故か。

A2

小規模の造成工事では、道路側溝の断面改修までの指導が困難である。また計算上は確保されていても、合流箇所や樹などで直角に

水路が折れ曲がってしまう場合などは越水することがあった。

Q3

開発されたことで水田であった時と比べ、保水力は低下している。雨水流出量が水田だったときと同じか、それ以下に抑えるという考え方は徹底できているのか。

A3

規模によっては調整池の設置を許可条件としている。その他、流量にあった水路の拡幅工事で対応していく。



Q 生命（いのち）の安全教育推進を

A 教育長

子ども達を性犯罪の被害者にも加害者にも傍観者にもならない指導をしていく。

Q1

近年、子どもの性被害は高止まりを続けており、SNSに起因する被害のうち小学生被害では11歳で不同意わいせつが最多となっている。

文科省が主導し生命の安全教育が全国展開されているが熊野町の取り組みは。

A1

低学年ではデリケートゾーンを守るルールを理解することを指導し、中学年では自分と他の人どちらも大切にすることを養う指導をしている。高学年ではSNSとの関わりについて安全な意思決定と行動選択ができるよう学んでいる。

Q2

嫌なことに対して「NO」と言える自己決定権の育成は、どのように取り組まれているのか。

A2

道徳教育などを通じて、子どもたちの自己表現に取り組んできた。今後、さらに文科省の教材を活用し取り組みを進めていく。



▲ 文科省の生命の安全教育教材